

報道関係各位

2026年7月1日

アライドアーキテクト株式会社

アライドアーキテクト、ナスダック上場の DeFi Development Corp.とパートナーシップ構築

同社が運用するソラナ・バリデータで利回り獲得を目指すことを決定

AX の力で企業成長を実現するアライドアーキテクト株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役会長:田中 裕志、証券コード:6081、以下「当社」)は、ソラナ(Solana)を活用したオンチェーン上の資産運用について、ナスダック上場企業である DeFi Development Corp.(Nasdaq:DFDV、本社:米国フロリダ州ボカラトン、以下「DeFi 社」)とパートナーシップ構築の上で、連結子会社であるシンガポール法人 Allied Verse Pte. Ltd.(所在地:シンガポール共和国、代表者:中村 壮秀、以下「アライドバース」)を通じて、DeFi 社が運用するソラナのバリデータ(ブロックチェーン上の取引を検証して報酬を得る機能)を活用し、保有する SOL(ソラナブロックチェーン上のネイティブトークン)のステーキング(預け入れにより報酬を得る仕組み)によって、利回りの獲得を目指す資産運用を行うことを決定しました。

当社は、株式・債券・不動産・IP など、あらゆる資産がオンチェーン(ブロックチェーン上に記録された状態)で 24 時間 365 日取引される時代の到来を見据え、「オンチェーン金融関連銘柄」を軸としたポートフォリオを構築する方針を掲げています。子会社のアライドバースを通じてソラナのバリデータ運用を開始する見込みであり、本取り組みはその取り組みを一段と高度化するものです。当社は、本運用を通じて得た知見を、関係する法令を遵守したうえで、企業・投資家向けのデジタル資産の導入・運用支援サービスへと展開していく構想です。

アライドアーキテクト、ナスダック上場の DeFi Development Corp.とパートナーシップ構築



同社が運用するソラナ・バリデータで
利回り獲得を目指すことを決定

■パートナー:DeFi 社について

DeFi 社は、SOL を蓄積・複利運用することを目的とする財務戦略を構築した、最初の米国上場企業であるとされています(DeFi 社の発表に基づく)。同社は、1 株あたりが裏付ける SOL の量を示す独自指標「SOL

Per Share (SPS)』の最大化を経営の中核に据え、SOL の保有・ステーキングに加えて、自社でバリデータインフラを運用しています。

また、DeFi 社は、当社が 2026 年 4 月 21 日に決議した第三者割当による新株式及び第 24 回新株予約権の割当先として、当社への出資を実施しております。両社は、この資本関係を起点として、ソラナをはじめとするオンチェーン金融領域における事業面での提携の可能性についても協議を進めております。

DeFi 社は、ソラナ上のリキッド・ステーキング・トークン(以下「LST」)基盤を提供する Sanctum の技術を用いて、自社が運営するバリデータに委任(ステーキング)された SOL を表す LST「dfdvSOL」を発行しています。これにより、DeFi 社はソラナ上で LST を保有・活用する初の上場企業であるとされています(DeFi 社の発表に基づく)。dfdvSOL の保有者は、SOL をステーキングしたまま流動性を維持でき、ステーキング報酬は dfdvSOL の償還価値に自動的に反映されます。

dfdvSOL は、ソラナエコシステム最大級のレンディング(貸借)プロトコルである Kamino に統合されており、利回りの獲得や担保としての活用が可能です。当社は、子会社のアライドパスを通じて、この dfdvSOL を活用した運用を行う予定です。具体的な手法は次項をご参照ください。

■ソラナのステーキングを起点とした自社運用

バリデータ運用とは

バリデータは、ブロックチェーン上で日々発生する取引を検証することで、ネットワークの維持に貢献するノード(参加者)です。プロトコル(スマートコントラクト)にトークンをロックし、バリデータとして直接または委任を通じて参加することで、ネットワークの運営・安全性に貢献し報酬を得る仕組みは「ステーキング」と呼ばれています。

LST(リキッド・ステーキング・トークン)とは

ステーキングのためにバリデータへ預けた SOL は、ステーキングを解除するまで動かすことができません。その間、当該 SOL を売買したり担保として活用したりする機会は失われ、本来得られたはずの収益機会を逃すこととなります。

この課題を解決するために生まれたのが LST です。LST は、ステーキング中の SOL を裏付けとして発行される「預け入れ証明書」の機能を果たすもので、ステーキング報酬を反映して価値が積み上がっていきます。利用者は SOL をステーキングしたまま、その価値を LST という流動性のある形で保有できるため、ステーキング報酬を得ながら、同時に LST を DeFi(分散型金融)で担保に用いるなどの二次的な運用が可能になります。本取り組みで用いる「dfdvSOL」は、DeFi 社が運営するバリデータに委任された SOL を表す LST です。

DeFi(分散型金融)を活用したルーピング運用とは

当社は、子会社のアライドパスを通じて、DeFi 社が提供する dfdvSOL を、例えばソラナ最大級のレンディング系 DeFi である Kamino で、以下のように活用します。

1. 保有する SOL を DeFi 社のバリデータへステーキングし、その対価として dfdvSOL を取得する。
2. その dfdvSOL を担保に、利息を支払って SOL を借り入れる。
3. 借り入れた SOL を再びステーキングに充て、新たに dfdvSOL を取得する。
4. 新たに取得した dfdvSOL を、再び Kamino で担保に用いて SOL を借り入れる。

5. 以後、3と4を繰り返す。

このように、借り入れた SOL を再度ステーキングに充てて dfdvSOL のポジションを積み増していく手法は「ルーピング運用」と呼ばれ、ソラナを活用した資産運用の効率を高めることが期待できます。

なお、ルーピング運用には、担保価値下落時の清算リスク、スマートコントラクトの脆弱性に起因するリスク、LST (dfdvSOL) の流動性低下リスク・ペッグ乖離リスク、借入金利の変動リスク等が伴います。当社は、アライドバースのルーピング運用の実施を通して、ステーキング報酬および DeFi 活用による運用効率の向上を目指します。なお、本ルーピング運用は、関係する法令を遵守した上での、適切なリスク管理体制のもとで実施されます。

<DeFi Development Corp. 会社概要>

- ・会社名 : DeFi Development Corp. (Nasdaq:DFDV)
- ・所在地 : 米国フロリダ州ボカラトン
- ・URL : <https://defidevcorp.com/>
- ・事業内容 : ソラナ (SOL) を蓄積・複利運用するトレジャリー戦略、バリデータ運用、LST (dfdvSOL) の提供等

<運用主体: Allied Verse Pte. Ltd. 会社概要>

- ・会社名 : Allied Verse Pte. Ltd.
- ・代表者 : 中村 壮秀
- ・所在地 : シンガポール共和国
- ・事業内容 : デジタル資産運用事業 (本取り組みに基づく運用の実施主体)
- ・資本関係 : 当社 (アライドアーキテクト株式会社) の連結子会社

<アライドアーキテクト株式会社 会社概要>

- ・代表者 : 代表取締役会長 田中 裕志、取締役社長 村岡 弥真人
- ・所在地 : 東京都渋谷区恵比寿一丁目 19-15 ウノサワ東急ビル 4 階
- ・URL : <https://www.aainc.co.jp>
- ・設立 : 2005 年 8 月 30 日
- ・事業内容 : マーケティング AX 支援事業・資産 AX 事業

<アライドアーキテクト株式会社とは>

アライドアーキテクト株式会社は、従来の事業構造を AI 前提で再設計する AX (AI トランスフォーメーション) を推進し、企業の持続的な成長を実現する AX カンパニーです。

AI を活用したデータ×クリエイティブでマーケティングを変革する「マーケティング AX 事業」と、オンチェーン経済圏における AX を通じて資産価値の向上を目指す「資産 AX 事業」を展開しています。

2005 年の創業以来、6,000 社を超えるマーケティング支援実績と、UGC をはじめとする顧客の声データ資産、独自開発の SaaS・AI 技術を蓄積。戦略立案からクリエイティブ、運用、開発までを担うデジタル・AI 人材を結集し、自らを変革し続ける企画者・創造者の集団として、「世界中の人と企業の創造がめぐる社会」を目指して、挑み続けています。

※本リリースに記載された社名・製品名・サービス名等は、各社の商標または登録商標です。

※dfdvSOL は DeFi Development Corp. が Sanctum の技術を用いて提供する LST であり、その開発・セキュリティ・運用についてアライドバースおよび当社は責任を負うものではありません。

ません。

※暗号資産の保有・運用には、価格変動リスク、担保価値下落時の清算リスク、リキッド・ステーキング・トークンの流動性低下およびペッグ乖離リスク、スマートコントラクトの脆弱性リスク、秘密鍵の管理に関するリスク、規制動向の変化に伴うリスク等が伴います。本リリースは当社グループの事業活動に関する情報提供を目的とするものであり、特定の暗号資産または暗号資産関連サービスへの参加を勧誘するものではありません。

※本取り組みに基づく運用は Allied Verse Pte. Ltd.がシンガポール共和国において行うものです。

【リリースに関するお問い合わせ先】

アライドアーキテクト株式会社 経営企画室 広報担当

TEL:03-6408-2791 MAIL:press@aainc.co.jp